

# 第4回 一括処理

# 複数のデータを一括処理する プログラムを作成しましょう

## +a

## +aについて

- 標準偏差による解析範囲の判定
- その他、知っておいた方がよいPythonの知識

# 仕様

- 入力データファイル（csv）
  - 処理範囲のみのデータ
  - 1列目にサンプル番号または時刻
  - 2列目に筋電位データ
  - 1行目は列ヘッダー
- 複数の動作ファイルを一括処理
  - MVCファイルと動作ファイルを区別

# 仕様

- 波形処理
  - 整流処理
    - 整流処理は全波整流かRMSか選択
  - 振幅正規化（%MVC）
  - 時間正規化
  - 波形処理の要・不要をそれぞれ選択
  - 波形処理結果をグラフ表示
- 平均値、積分値、最大値を算出（代表値）
  - %MVCと生データのどちらで計算するか選択
- 計算に必要なパラメータを設定可能
- 代表値と波形処理したデータを一括でファイル保存

# ヒント

- どのような処理をするか入力させる
  - 入力は極力自由度を下げる
- 実際にデータを処理する部分とそれ以外を分ける
  - プログラムの見通しが良くなるように
- 条件（if文）によって処理内容を決める
- ファイルの一覧を取得してfor文で繰り返す
- 一時的な変数も活用

# サポートについて

- この一括処理プログラムのサポートは原則Discordで行います
  - 他の方との情報共有のため
- 必要に応じて作成中のファイルを共有してください
  - 行番号で場所を参照する場合あり
  - 方法は次のページ

# Notebookの共有

- 右上の「共有」をクリック



- メールアドレスを入力し「完了」をクリック





# 行番号の表示

- 右上の歯車アイコンをクリック



- エディタタブ（１）の「行番号を表示」（２）をチェックして保存（３）

